

これぞバレエ!! チャイコフスキーの古典名作を
英国ロイヤル・バレエ団のトップ・スターと共に上演!!

アリーナ・コジョカル主演
東京バレエ団

「くるみ割り人形」



アリーナ・コジョカル
(英国ロイヤル・バレエ団)



スティーヴン・マックレー
(英国ロイヤル・バレエ団)

© Dee Conway

2009

12/4

(金) PM 6:30 開演 愛知県芸術劇場大ホール

主催: 中京テレビ放送 S ¥14,000 A ¥11,000 B ¥9,000 C ¥7,000 D ¥5,000 学生 ¥3,000 (税込)

お問合せ
お申込み

中京テレビ事業 ☎052-957-3333

〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F (月~金 AM9:30~PM5:30/土・日・祝日休業)

学生券

ご希望の方は往復ハガキに、希望公演名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、中京テレビ事業「学生券」係までお申込みください。公演の3週間前に抽選の上、お席をお取りできるか否かご連絡致します。往復ハガキ1枚につき、1公演1名様でお願い致します。

●出演者等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。●未就学児童のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。

インターネットからでもお申込み頂けます。
<http://cte.jp> 中京テレビ事業 検索

チケットのお求めは
チケットぴあ (Pコード 395-847)
ローソンチケット (Lコード 46220)
愛知芸術文化センタープレイガイド
E+ (イープラス)

0570-02-9999
0570-084-004
052-972-0430
<http://eplus.jp> 他

東京バレエ団 『くるみ割り人形』全2幕

THE TOKYO BALLET The Nutcracker

夢が溢れる大人気のパレエ作品をここに上演!
英国バレエ界のトップ・スターとの夢の共演!



Photo: Kiyomori Hasegawa

本公演では、ゲストに英国バレエ界きつてのプリマとして世界各地で圧倒的な人気を誇る英国ロイヤルバレエ団のプリンシパル、アリーナ・コジョカルと、同じくロイヤルバレエで活躍する若きプリンス、ステイーヴン・マックレーが特別ゲストとして参加予定。

コジョカルは、可憐な美しさと妖精のような軽やかさで日本でも絶大な人気を誇るスターとして活躍する他、英国ロイヤルバレエ団の来日公演でも圧倒的な人気を誇るなど、バレエファンなら誰しもが認める将来の大スターの地位が確立した若きプリマです。

同じく王子役で客演のステイーヴン・マックレーは、その名が一躍日本に広まったのは2007年にコジョカルと共に東京バレエ団に客演した「真夏の夜の夢」での事。急きょ怪我したダンサーの代役としてゲスト出演が決まったにも関わらず、その丹精なスタイルとダンスの申し子といえる天性の才能を惜しみなく披露し、一夜にしてその名が目本のバレエファンに広まった若きプリンスなのです。

その天賦の才能に恵まれた若き2人のスターと東京バレエ団による「くるみ割り人形」の上演。コジョカルの愛らしいクララ、マックレーの若さ溢れる王子、そして世界的評価の高い群舞で均整の取れた美しさをみせる東京バレエ団の共演は、この作品でこそ、その素晴らしさをご堪能いただけるはず。

栄光のロイヤル・スタイルと東京バレエ団との夢のコラボレーションは決して見逃せません!



アリーナ・コジョカル
Alina Cojocaru

ブカレスト生まれ。1997年に英国ロイヤルバレエ学校に入学するまで、7年間をキエフで学ぶ。6ヵ月後に卒業、キエフに戻り、プリンシパル・ダンサーとしてキエフバレエに入団。1年後、99年11月に英国ロイヤルバレエ団に移籍、その年のシーズンの終わりにソリストに昇格する。2001年4月17日、「ジゼル」上演後にアンソニー・ダウエルによってプリンシパルに昇格。英国ロイヤルバレエ団の一員として、世界のカンパニーに客演もしている。

04年にニジンスキー賞の女性部門ベストダンサー賞およびブノワ舞踊賞の女性部門ベストダンサー賞、名古屋での世界バレエ&王ダンスコンクール金賞、97年にローザンヌ国際バレエコンクールでスカラシップ受賞のほか、02年舞踊評論家賞女性部門ベストダンサー、同年4月にはルーマニア大統領イオン・イリエスクよりルーマニア国家功績勲章を授与される。



ステイーヴン・マックレー
Steven McRae

シドニー生まれ。ヒラリー・カプランの元で2003年から2004年にかけてロイヤルバレエ学校で学ぶ。カプランの指導の下、RADのソロ・シール賞を受賞。02年アデライン・ジェニー金賞を受賞、03年にローザンヌ国際バレエコンクールで入賞する。

04年に英国ロイヤルバレエ団に入団。06年にソリストに昇進。2007年ダンス批評家賞の新人男性アーティスト賞(クラシック部門)を受賞した。2007年シーズン、10月の「ロミオとジュリエット」でアリーナ・コジョカルを相手にロミオ役のデビューを飾り、同じくコジョカルと東京バレエ団「真夏の夜の夢」にオベロン役で客演。大成功を収め、一躍注目の存在となった。

チャイコフスキー記念 東京バレエ団

THE TOKYO BALLET

東京バレエ団は1964年に創設、3年目の1966年には早くも当時のソビエト政府に招かれ、モスクワ、レニングラードで公演を行った。この成功によりソビエト文化省より「チャイコフスキー記念」の名称を贈られた。創立以来一貫して、古典の全篇作品から現代振付家の名作まで幅広いレパートリーを誇っている。なかでも現代バレエ界を代表する三大振付家—モーリス・ベジャール(『ザ・カフキ』『M1』)、イリ・キリアン(『パーフェクト・コンセプト』)、ジョン・ノイマイヤー(『月に寄せる七つの俳句』『時節の色』)が東京バレエ団のために新作を振付けておりこれらの作品はいずれも国内外で大きな成功を収めている。

01年6月にはウラジーミル・ワシーリエフを振付・演出に迎えて「ドン・キホーテ」を初演し絶賛を博した。03年11月には「春の祭典」「火の鳥」「ボレロ」でダニエル・バレンボイム指揮シカゴ交響楽団との共演を果たした。04年よりベジャールを名誉芸術顧問に迎え、就任を記念して新たに「中国の不思議な役人」が贈られた。05年5月には、初めてのフレデリック・アシユン作品である「真夏の夜の夢」をアンソニー・ダウエルの指導のもとバレエ団初演し、06年11月にはピエール・ラコットを振付・演出に迎えて、「ドナウの娘」を日本初演し、大きな話題となった。

東京バレエ団はこれまでに、日本の舞台芸術史上始めて以来の、23次689回の海外公演を行っており、「日本の生んだ世界のバレエ団」として国内外で高く評価されている。